

- ・ 深度4.93～4.97mの「粘土状破砕部(Hc-1)」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・ 深度4.97～7.81mの「粘土混じり岩片状破砕部(H)」と記載の箇所については、やや硬質～やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

### 破砕部性状の記事

● 4.93～7.81m: 破砕部 (K断層)  
 4.93～4.97m: 粘土状破砕部 (Hc-1)  
 上端55°, 下端55° で、両者とも直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒を少量含む。色調は浅部側から、こぶい褐色～明黄褐色～にぶい橙色～明黄褐色とほぼ平行な綿状で厚さ5～10mmで繰り返して出現する。幅3.5cm。  
 4.97～7.81m: 粘土混じり岩片状破砕部 (H)  
 上端55°, 下端50° で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で連続する。径5～40mmの一部粘土化、一部硬さEないDの花崗斑岩岩片と岩片が粘土化ないし砂状化した基質からなる。5.74～5.84m, 6.17～6.42m, 7.10～7.34m, 7.50～7.69m はいずれも粘土化が著しい軟弱な粘土であるが、各粘土境界は漸移的でない断面はもたない。全体の色調は風化の強弱に対応して、灰白色～明黄褐色～橙色～褐色など多様に変化する。

### コア写真



深度4.93～4.97mの連続性及び直線性が良い粘土



青枠部拡大

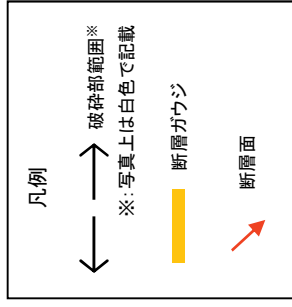


・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

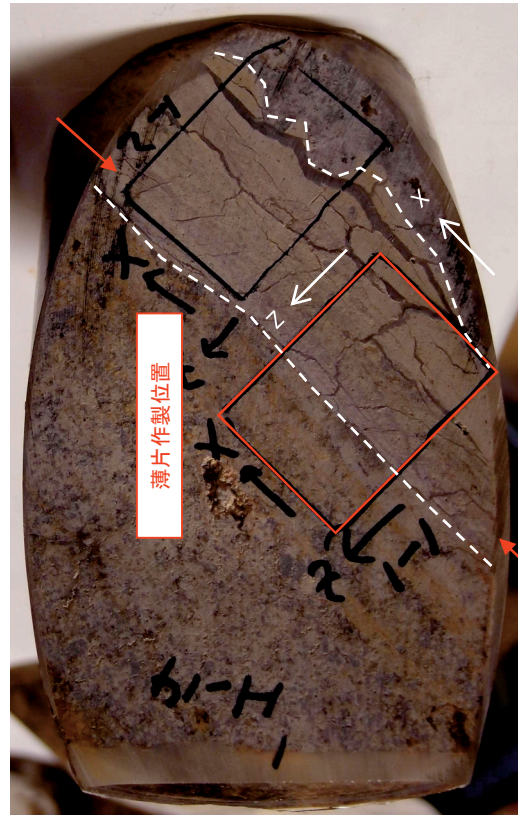
※断層面  $\alpha$  は最新活動面



コア写真

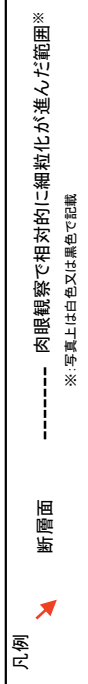


薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm



薄片全景写真(単ニコル)



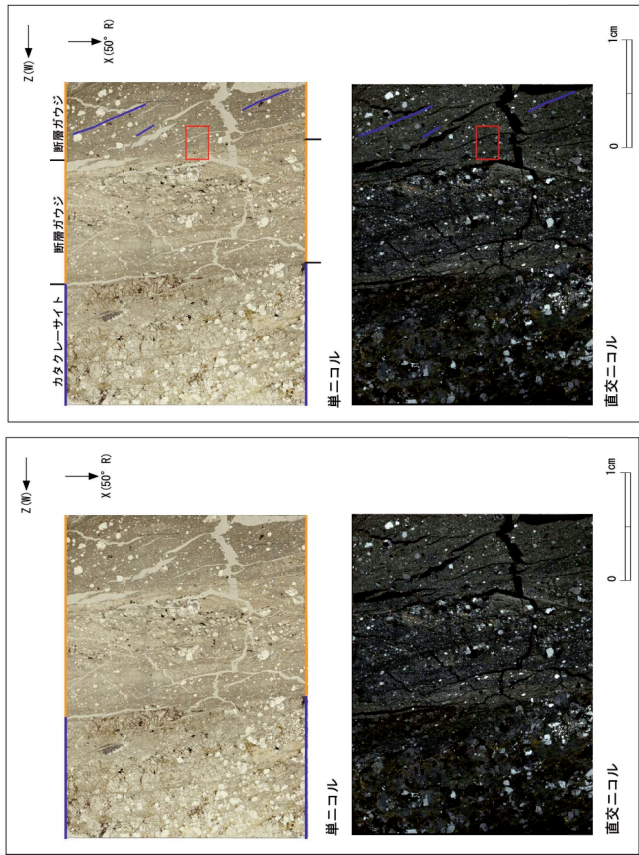
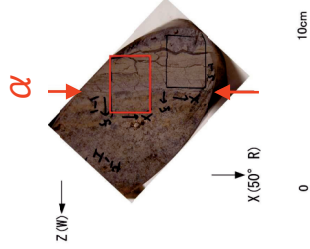
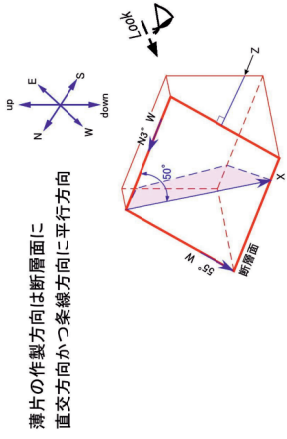
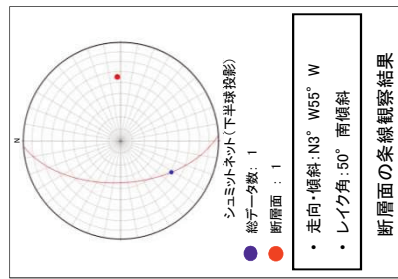
X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm



・H24-H-14のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。  
 ➢ (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。  
 ➢ (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。  
 ➢ (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
 ➢ (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。  
 ➢ 岩片は少ない。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面



- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。(図3)
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2, 3)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2, 3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2, 3)

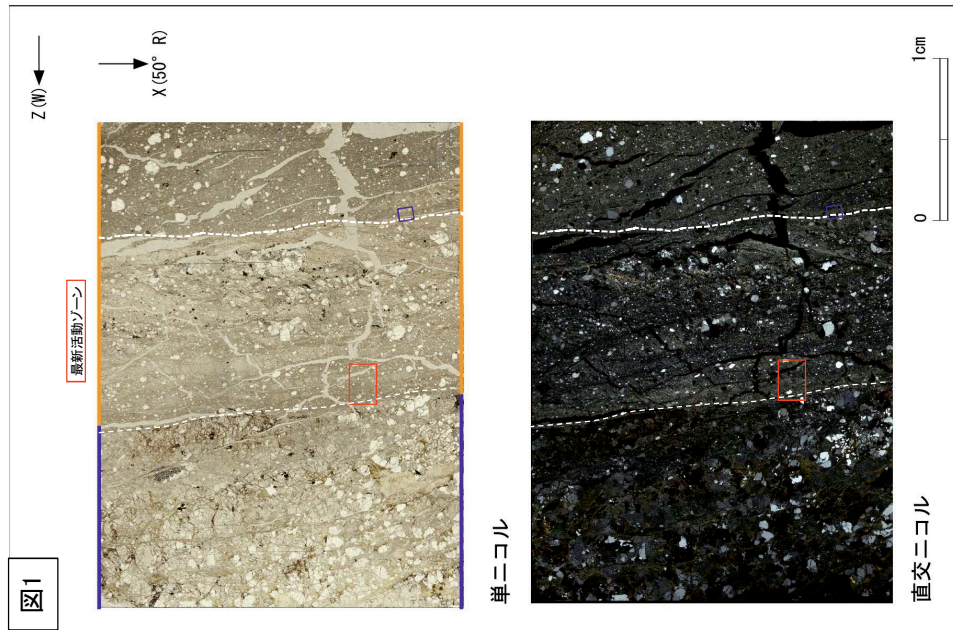
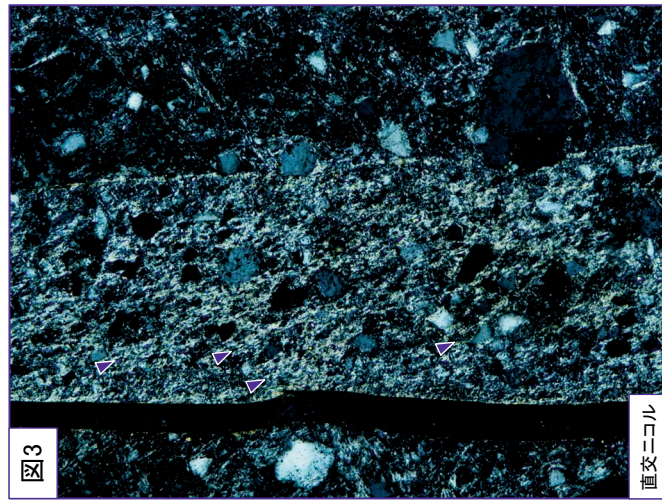
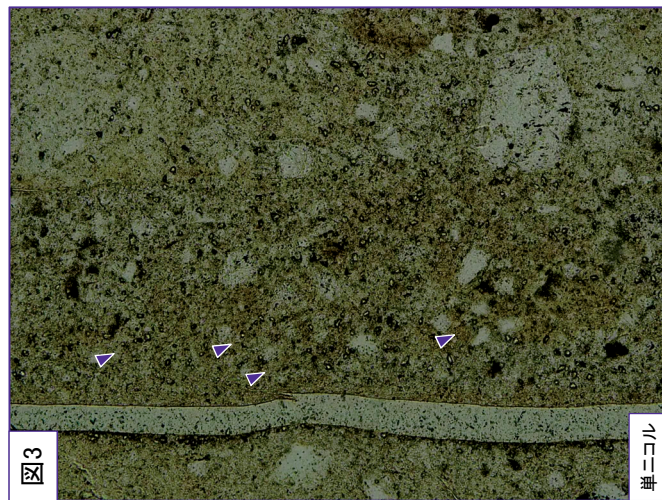
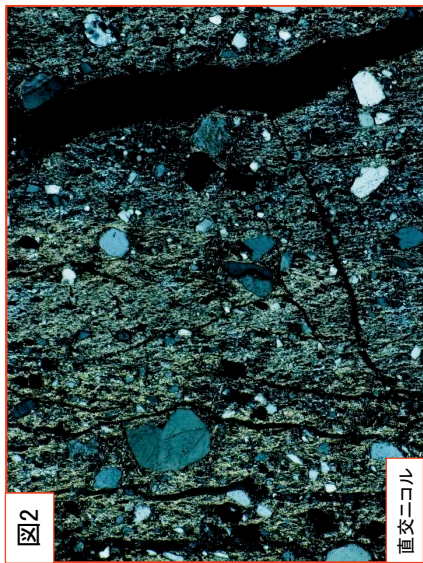
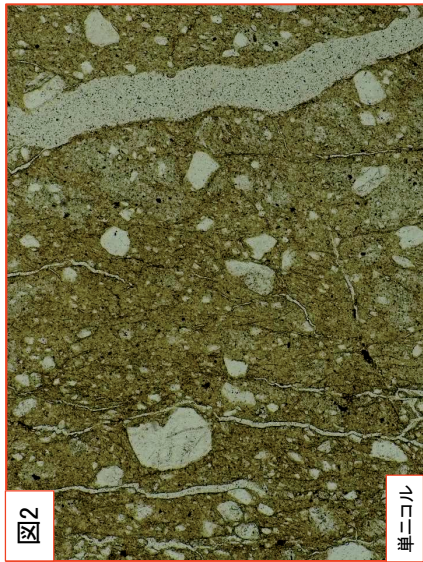


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。破線は認定したゾーンの境界を示す



青三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



(肉眼観察結果 深度4.93m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面  $\alpha$  に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	3.5	有

\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。